



# 学校だより 輝く大滝

令和8年（2026年）

1月16日 第15号

多賀町立大滝小学校

文責：校長 豊原 豪

『やいきる やいぬく やいとげる』～確かな学力・行動力を身につけた大滝っ子～

## ① 2025年の世界的に有名な日本人は だれでしょうか？

今回ご紹介するのは、ノーベル生理学・医学賞受賞の坂口志文先生です。

始業式でも紹介したように、坂口先生の研究は「ガンなどを自己免疫で治療すること」です。イラストで紹介します。

←こちらから読みましょう



引用：朝日新聞イラスト

このように、細胞は健康のために働いています。敵をやっつけることが仕事です。

（体内に免疫があることは何百年も前から知られていた。）

でもね、次のように、自分の細胞や、元気な細胞を攻撃してしまうことがあります。（花粉症などのこと）



引用：朝日新聞イラスト

坂口先生は、**攻撃をやめてしまう（ブレーキをかける）T細胞を発見**しました。

このT細胞がガンへの攻撃をやめてしまうこともわかってきました。（ホントは攻撃してほしいのに「自分の細胞だから攻撃しない」そうです。）



引用：朝日新聞イラスト

このT細胞をコントロールできたら花粉症やガンが治るのではないかと全世界82億人が期待しています。裏面に続く

坂口先生から大滝小学校の皆さんに色紙などをいただきました。

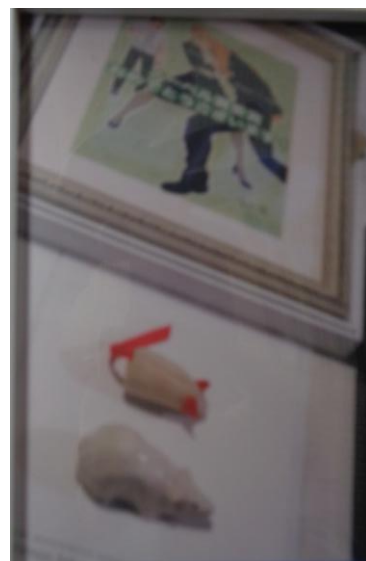
廊下や校長室に飾っています。是非お立ち寄りください。



左色紙  
小学生ならば…、  
「ひとつひとつ」  
と書いていただきました

右写真  
カロリンスカ  
研究所撮影  
の生写真

左下はノーベルチョコです。(勿体なくて食べられません)



(恒例行事として、受賞者のゆかり  
のものを博物館に寄贈された品々)

(写真上)マンガ『はたらく細胞』  
作者清水茜さんのお祝い色紙

(写真下)犠牲になったマウスの  
供養の置物(上ご令室・下ご母堂作)



「はたらく細胞」のコミックス  
(『制御性T細胞』も活躍します。こちらは、書店で購入しました。)

どちらも、6年生教室にあります。



がん免疫療法の  
専門書～25人の  
科学者の物語～  
もいただきました。  
1人分が短編で  
内容も平易、高学  
年でも読めます。

坂口先生が大切にされている言葉…

- ① 自分で興味がある → 大切にする → だんだん形がはっきりする →
- ② 気がついたら面白い境地に達している →
- ③ そういうことが起きれば → どんな分野でも面白い

諸連絡

☆令和8年2月の「大滝小学校 PTA 資源回収」は行いません。

3月31日(火)の離任式は、社会情勢を考慮し、今年度から行わない予定です。